



無作為オンラインパネル『PbOPSS-23』のご登録者の皆様へ 2024年アンケートの確定結果のご紹介

PbOPSS-23

無作為オンラインパネル

2024年11月

拝啓 晩秋の候、朝晩の冷え込みが一層身にしみる季節となりましたが、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日中の陽射しにはまだ少し暖かさを感じるものの、冬の訪れがすぐそこに感じられる今日この頃です。

さて、無作為オンラインパネル PbOPSS-23にご登録されている皆様には、さる2月に第2回 PbOPSS-23パネル調査「デジタル社会化とメディア活用についてのアンケート」にご協力いただきました。7月には、定期通信第5号をお送りし、この第2回調査の結果速報をお伝えいたしました。今回お送りする定期通信第6号では、確定したデータを使用して、いくつかの調査項目についての分析結果をご紹介します。このように今後も、4~5ヶ月に一度くらいの PbOPSS-23定期通信をお送りする予定ですので、お手元に届いた際にはぜひご覧いただければ幸いです。

本調査研究は2026年度(2027年3月)まで続きます。引き続き、ご協力いただきたくお願い申し上げます。

敬具

皆様の個人情報につきましては、プライバシーマークを取得している専門調査会社のサーベイリサーチセンターのみが登録者名簿を厳重に管理し、わたくしども研究者は皆様のご住所、お名前、メールアドレスは所持しておりません。この通信も、わたくしども研究者が作成したあと調査会社に送付を委託してお届けします。ですので、住所やメールアドレスなどご連絡先の変更は、下記のサーベイリサーチセンターの受付窓口にご連絡下さい。

ご連絡先変更などの受付窓口

株式会社サーベイリサーチセンター 調査事務局 <https://www.surece.co.jp/>
〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目1番3号 PMO 水道橋ビル 6F 担当:土屋・阿部・西浦・生島
フリーダイヤル 0120-366-354 (平日9時~18時・土日祝祭日を除く)
メールアドレス ochakenkyu@surece.co.jp

研究プロジェクト

研究代表者: 杉野 勇(お茶の水女子大学)
研究分担者: 尾嶋 史章(同志社大学)、歸山 亜紀(群馬県立女子大学)、
小林 大祐(金沢大学)、轟 亮(金沢大学)、平沢 和司(北海道大学)

研究プロジェクトのウェブページでは、結果の報告など随時情報を更新しています。
URL:<https://www.li.ocha.ac.jp/ug/hss/socio/sugino/PbOPSS23/>



調査結果 PbOPSS-23パネル第2回調査「デジタル社会化とメディア活用についてのアンケート」は、2024年1月23日時点で PbOPSS-23パネルに登録中の1,003人の方のうち、令和6年能登半島地震の影響が大きかった地域にお住まいの方を除いた945の方に回答をお願いし、739人の方からご回答いただきました（ウェブ回答は655人、紙回答は84人でした）。前回発行の定期通信第5号では調査結果の速報としてウェブ回答データの結果のみを紹介しましたが、その後郵送回答のデータ化処理とミスの特検を行いましたので、今回の定期通信第6号では、すべてのデータを用いた分析結果を紹介いたします。

〔生成AIについて〕

第2回調査のメインテーマは、「デジタル化社会」でした。デジタル化社会を象徴する出来事として、生成AIの登場があげられます。生成AIとは、質問や指示をすると、自然な文章や画像、動画を作り出す技術のことです。2022年11月に生成AIを代表するサービスChatGPT（チャット・ジー・ピー・ティー）が公開され、その後ほかのサービスも相次いで登場し、急速に発展しています。生成AIの利用については、仕事や学習の効率化に役立つという意見がある一方で、人間の思考力の低下や、これまでの人間労働が奪われてしまう、といった意見もあります。

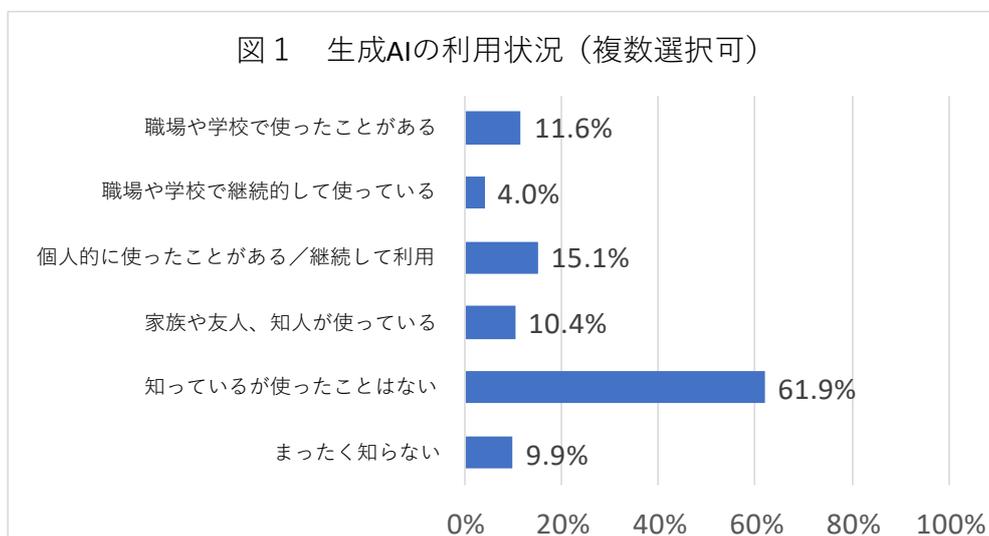
○生成AIの利用状況

そこで、生成AIの利用状況について見ていきたいと思います。「あなたは、次のようなことを経験していますか」（問7）と尋ね、図1に示した選択肢からあてはまるものすべてを選んで回答いただきました。

「生成AIをまったく知らない」と回答された方が9.9%、「知っているが使ったことはない」と回答された方が61.9%でした。2024年2月の調査時点では、生成AIブームといわれたほど毎日のように生成AIの話題が報道されていましたが、今回の調査データでは認知度は高いものの、過半数の人びとが利用していない、という結果でした。

「知っているが使ったことはない」について年齢層別に回答比率をみると、19～29歳で47.5%、30～39歳で53.5%、40～49歳で61.0%、50～59歳で60.3%、60～70歳で73.9%となっており、年齢が高い層で「知っているが使ったことはない」と回答した比率が高いといえます。

「職場や学校で使ったことがある」と回答された方は11.6%、「職場や学校で継続して使っている」と回答された方はわずか4.0%でした。



○生成 AI によって仕事が奪われる？

では、「生成 AI の普及によって仕事が奪われる不安」はどの程度なのでしょうか。上記の生成 AI の利用状況についての質問で「生成 AI について、まったく知らない」と回答された方以外のかたに、「生成 AI の普及によってご自身やご家族の仕事が奪われる不安をどの程度感じますか」（問8）と尋ねました。

図2に示したように「大いに感じる」「ある程度感じる」をあわせると36.1%、「あまり感じない」「全く感じない」をあわせると57.3%ですので、全体としては生成 AI によって仕事を奪われるという不安が小さい方のほうが、不安が大きい方よりも多いという結果でした。

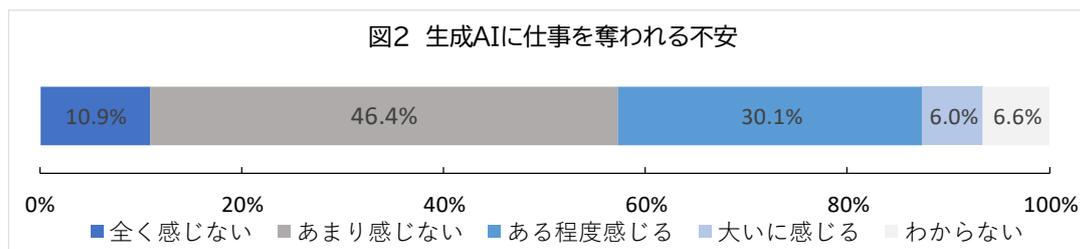
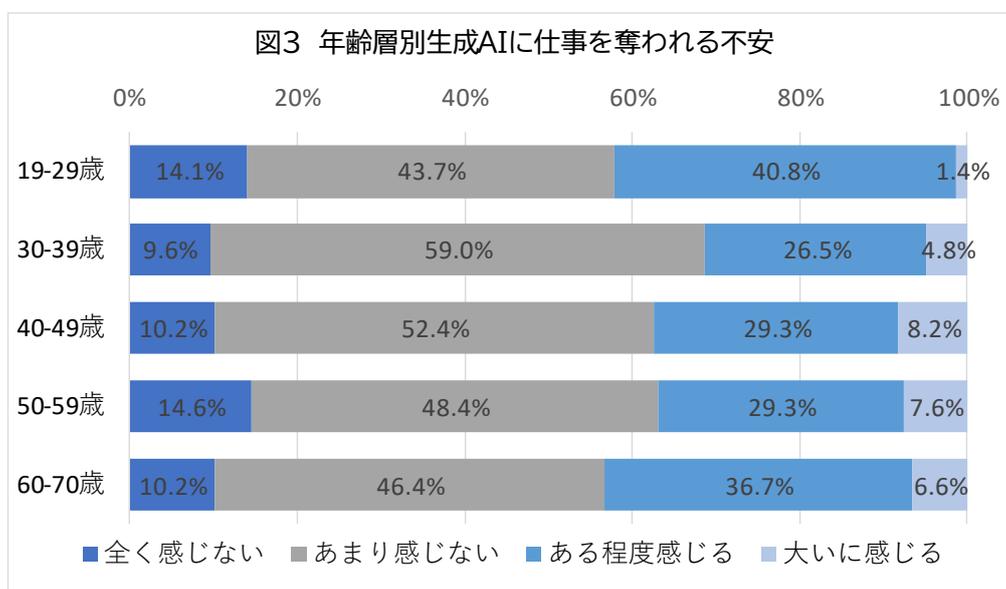


図3は、年齢層別に、先と同じ「生成 AI の普及によって仕事が奪われる不安」を感じるかどうかをみたものです（図3では「わからない」の回答はのぞいて集計しています）。各年齢層で回答傾向に顕著な違いは見られませんでした。

一番若い年齢層である 19～29 歳では、「全く感じない」と回答した割合が 14.1%と相対的に高い一方で、「ある程度感じる」と回答した割合も40.8%とほかの年齢層に比べると高く、回答が分かれています。30～39歳では「全く感じない」9.6%、「あまり感じない」59.0%でこれらを合わせると 7割弱となり、とほかの年齢層とくらべると仕事を奪われる不安が低いといえます。40～49 歳、50～59 歳、60～70歳では、50～59 歳で「全く感じない」とする回答比率が14.6%と少し高いことを除けば回答傾向は類似しています。

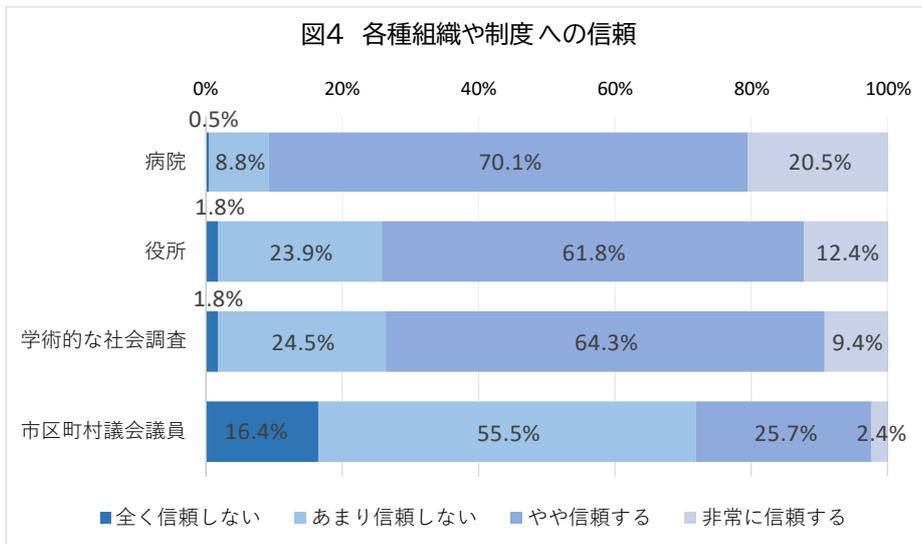
ただし、各年齢層で同じような回答傾向がみられても、年齢世代によって直面している課題や置かれている状況は異なりますから、こうした回答傾向を生んでいる理由は異なるかもしれません。これを明らかにすることは、今後の課題です。



〔さまざまな組織や制度への信頼〕

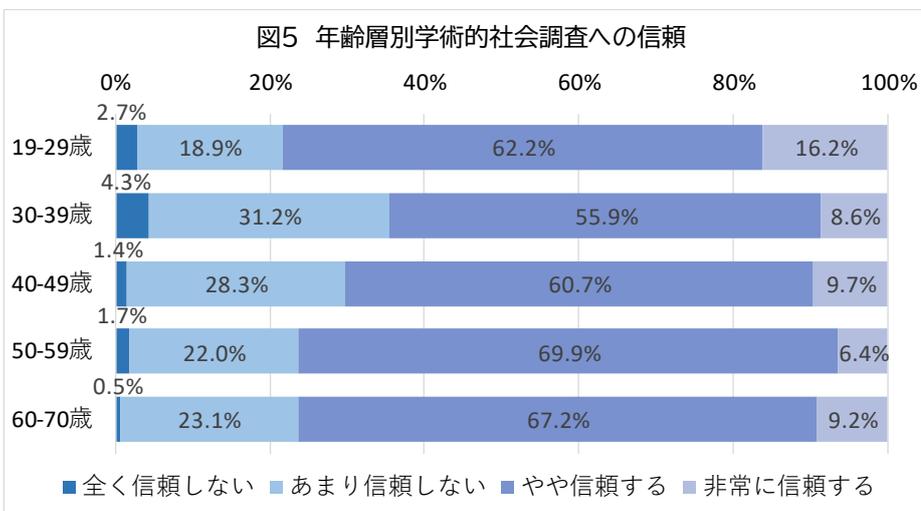
さて、第2回調査では「あなたは、次にあげる組織や制度などをどの程度信頼しますか」（問15）という質問をして、「役所」「市区町村議会議員」「病院」「学術的な社会調査」それぞれにたいする信頼度を尋ねました。

図4に結果を示しています。このなかでは「病院」への信頼がもっとも高く、「非常に信頼する」20.5%と「やや信頼する」70.1%をあわせると、9割以上のかたが「病院」を信頼していると回答されています。次いで「役所」が「非常に信頼する」12.4%と「やや信頼する」61.8%を合わせて74.2%、「学術的な社会調査」が「非常に信頼する」9.4%と「やや信頼する」64.3%を合わせて73.7%でした。「市区町村議会議員」がこのなかではもっとも信頼が低く、「非常に信頼する」2.4%と「やや信頼する」25.7%で、あわせて3割以下でした。



○学術的な社会調査について

図5は、「学術的な社会調査」への信頼について年齢層別に集計したものです。いちばん若い年齢層（19～29歳）は「非常に信頼する」16.2%、「やや信頼する」62.2%を合わせて78.4%で、もっとも信頼の回答比率が高く、この年齢層以外では、年齢が高くなるにつれて信頼の回答比率が高くなっていました。



学術的な社会調査は、いま社会で何が起きているのか、それに対し人びとはどのように考えているのかを科学的かつ客観的に分析し、理解することを目指しておこなわれるものです。みなさまにご協力いただいている、このPbOPSS-23パネルも学術的な社会調査のひとつです。さらにみなさまから信頼いただけるように、社会調査に携わる者として努力していきますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。